第１回　津久見市総合計画審議会　議事概要

資料１、２関係

質問・意見	回答
資料2のp.11について、Well-Being指標の主観・客観データに乖離が見られ、その要因として考えられる有効回答数の少なさは気がかりである。ネット経由でアンケートを回収したため、回答者が限られているとも想定され、今後回答者数を増やすことは考えられないか。	デジタル庁およびSCI-Japanが示している、政令指定都市・東京23区以外の地方自治体における目標回収数であり、一定程度の市民の傾向が取れるとしている100以上はクリアしており、今回の調査結果としては問題ないと考えている。本調査は来年以降も毎年実施するため、回答者数を増やしながら経過を見ることで妥当性を確認することも可能である。今回の結果を用いてワークショップ等を進めさせていただきたい。
Well-Being指標について、アンケート設問は市独自に作成されたものか。	全国標準設問が50問ほど用意されており、そちらを適用した。
客観データと主観データに乖離が見られる項目が散見されるため、同じ項目でも主観・客観両データの要因が異なる可能性があるが、一方でその乖離にこそ津久見市の特色を見出せるのではないかと考える。	ご指摘のとおり、主観・客観データのギャップについて津久見市の特色を見出せると考えており、ワークショップにて話し合う予定である。また主観・客観データの指標は現状では完全なものではなく、SCI-Japanにおいて全国の自治体の意見を反映し、今後の改善が予定されている。
幸福度が高いが、生活満足度が低いことについてはどのように解釈すべきか。またどのように値の向上を図っていくべきか。	幸福度より生活満足度の方が外部環境とはより密接につながっているという傾向がわかっており、今回、主観指標が低かったことが生活満足度に影響しているということも考えられる。今後、ワークショップや相関分析によって要因や解決策を考えていく予定である。ワークショップでは特に見直すべき重点8項目を挙げ、次期総合計画策定へのストーリーを練っていく。

資料3関係

質問・意見	回答
資料3-1の重要度・満足度の散布図について、「水産業の振興」は真ん中付近に位置しているが、これについて詳しく問う設問はなかったのか。また、資料3-2について、高校生が自分自身で起業するなどの意見が見られるようなアンケート設計にすべきと考える。	前者について、現行総合計画の各基本方針を詳しく問う設問は用意していないが、今後漁協や農業関係者、商工会などの関係団体ヒアリングを実施予定であり、そこで各基本方針について詳しい状況・課題等をお聞きしたい。また後者について、資料中には記載していないが、高校生に対し「地元の資源を生かした未来のかっこいい仕事」を自由記述でお聞きした設問があり、その中には「海の魅力を伝えるライター」や「蜜柑を使った食品の販売・提供」などの魅力的な仕事が一定程度寄せられた。
資料3-1について、回答者の年代構成を見ると若い世代がやや多く、その影響が各調査結果に反映されてしまっているのではないか。また回答者のバイアスがかかっていることは調査結果から読み取れたか。	アンケート調査である以上、少なからずバイアスがかかることは致し方ないと考える。年代構成についてはご指摘のとおりで、本来は各調査結果を津久見市の年代構成比に寄せる処理を行うべきだが、今回の資料は速報版として、未処理の状態でお出ししている。次回の審議会では当該処理を行ったうえで資料をお出しするが、結果は速報版と大きく変動することはないと考えており、今回の資料は十分参考になりうる。
資料3-1のp.7において、働く場が充実していない理由として「希望する仕事内容を満たす職場がない」という意見が多かったが、具体的にどのような職場を希望しているかとの設問はあったのか。 ワークショップ内でも具体的な職場の希望について解明できれば良いと考える。	そのような設問は用意しておらず、ご質問に対してはわかりかねる、との回答となる。しかし、72%もの市民が働く場が充実していない理由を「希望の職場がない」と答えたことは重要な結果であると捉えている。
資料3-2の「将来津久見市に住みたいか」という設問における結果を踏まえ、将来子どもたちが住みたいと思ってもらえるように、今後のまちづくりについて考えていくべきである。	—
資料3-2の「津久見市に親しみや愛着があるか」という設問において、愛着が「とてもある」「ある」と答えた方は6割、津久見市の高校生に限ると8割という結果は割合が高いと言えるのか。他自治体の比較は行ったか。	他自治体との比較は現時点では行っていないため、調査結果の解釈については今後精査する予定である。
津久見市の産業振興が鉱工業に偏っていることは実感しており、高校生アンケートの結果を踏まえ、高校生の将来的な就職の受け皿となるような、主要産業にはとどまらない産業の振興の重要性や若い人へのバックアップの必要性を認識した次第である。	—

津久見高校への市外からの入学者は3割だが、津久見高校に入ってよかったと考える生徒が多いとの実感がある。その主要因は就職実績が考えられ、産業振興は明確な強みと考えているが、高校生アンケートの結果を見ると、その魅力が思うように伝わっていないと感じる。この資料を踏まえ、津久見市の中学校・小学校に対する活動にますます力を入れていきたい。	―

資料4関係

質問・意見	回答
資料のご説明を踏まえ、就学・就職により一時的に市外へ流出した若者がどれだけ津久見市へ戻ってくるかという観点の重要性を認識した次第である。資料3の調査結果や石川市長のお話も踏まえて、多様な産業の振興を図っていくか、強みの産業の振興に特化するべきかについては重要な論点になると考える。	
将来を考えた際に、自然災害への対策は非常に重要と考えるが、事務局のお考えはあるか。	Well-Being指標の中に防災はカテゴリーの1つとして位置づけられているため、今後調査結果を見ながら対策を検討する予定である。